

令和7年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館協会小中学校図書館部会

副部会長 長井 裕之（長野市立徳間小学校）

令和7年度も、長野県図書館協会小中学校部会では、「学びと心のより所となる学校図書館一学校内・外の連携による読書・学習・情報センター機能の構築を目指して」のテーマのもと活動を行いました。今年度も、司書教諭、学校司書、推薦課題図書選定、読書感想文・感想画コンクール、出版物利用促進、部会だよりの各委員会・担当により、テーマの具現を目指して実践してまいりました。その中で、司書教諭委員会では、昨年度から各校での司書教諭としての取り組みのきっかけとして、13の視点を示した実践報告様式を用い、各委員の実践を報告し合うことで学びを更に深め、それを県図書館協会のHPにも掲載していただき、全県に発信をしてまいりました。また、読書感想文・感想画コンクールについては、今年度も県内各校から数多くの応募をいただき、子どもたちと本を繋げる取組となりました。各支部の熱意ある活動ならびにご指導いただいた先生方に、心より感謝申し上げます。

更に今年度は、11月7日（金）・8日（土）の2日間にわたって、第75回長野県図書館大会が、第33回北信越地区学校図書館研究大会も兼ね、大会テーマ「豊かな学びを支える図書館～よりよい未来の創造に向けて～」のもと、佐久市の佐久平交流センターを主会場に、一部オンラインも含めてのハイブリッド形式にて開催されました。

1日目は、佐久市内の小中学校5校での実践活動公開から始まり、全体会（開会式、研究発表、全国SLA報告）等が行われました。そして2日目の午前中は、12分科会に分かれてのレポート発表や実践発表、ワークショップ、グループ討議などが活発に行われました。その中で、学校司書委員会が「学校図書館とプライバシー、やってみようアニメーション」をテーマに、第4分科会を担当させていただき、参会者の皆様と共に学びを深めることができました。続いて午後は、作家の石井 睦美 先生に「本を読む・物語を生きる」の演題でご講演をいただきました。「本への愛があふれていて、本と読者を結びつける司書という仕事を、勇気と自信をもって続けていきたいと思いました」「優しい口調の中にも熱い思いが込められた講演、心に響きました。あんな強い思いを生徒さんに伝えなくてはならない！と使命感を改めて感じました」など、参加者の皆様から多くの感動の声をいただきました。

大会を終えて改めて、県内のみならず北信越ブロックの各県から参加して下さった多くの皆様や、ご講演いただいた石井先生の熱を直に感じられたこと、言葉を交わし学び合えたことなども含め、本当に大きな実りのある大会となったことを実感しております。それも、大会長の県図書館協会会長 依田 緑 様、長い時間をかけて着々と準備を進めて下さった、実行委員長の佐久市教育長 神津 長生 様、県図書館協会佐久支部の皆様をはじめ、多くの関係者の皆様のご尽力の賜物だと心より感謝申し上げます。

また、各地区の学校図書館教育研究大会も、中信地区は大北支部、南信地区は下伊那支部、北信地区は更埴支部にて行われ、大きな成果を上げることができました。

最後になりましたが、本年度の長野県図書館協会小中学校図書館部会の活動にご協力いただきました皆様に御礼を申し上げるとともに、令和8年度第76回長野県図書館大会（諏訪大会）へのご協力をお願いいたしまして、今年度の活動の振り返りとさせていただきます。

支部だより

木曽支部

木曽支部代表 木祖村立木祖小学校 長谷川 松実

木曽支部は、木祖村、木曽町、王滝村、上松町、大桑村、南木曽町の小学校8校、中学校6校、小中学校1校 計15校からなります。図書館関係諸団体と連携しながら、活動を進めてきました。

1 事業内容

(1) 県図書館協会小中学校部会事業への協力、郡読書感想文審査委員会との連携

① 第48回 県読書感想文コンクールへの参加

郡内選定委員は2名を木曽国語同好会より選出していただきました。

木曽地区応募数 小学校 4編 中学校 10編

② 推薦課題図書を選定事業（小学校から選抜）

③ 県図書館協会の事業協力（中学校から選抜）

(2) 木曽郡学校司書部会の活動（各校司書）

主に郡内の学校での開催を行う中で、お互いに図書館の環境を見て学び合いました。

第1回部会…… 5月13日（火）木曽町文化交流センター 役員選出・事業計画立案

第2回部会…… 6月11日（水）南木曽小、南木曽中（郡研修日と合わせて開催）

第3回部会…… 7月28日（月）木曽町中 ワークショップ 情報交換 など

第4回部会…… 10月 2日（木）三岳小 情報交換など

第5回部会…… 11月17日（月）上松中 情報交換など

第6回部会…… 2月 6日（金）木曽町文化交流センター 反省など

(3) 県・中信図書館大会への参加

① 第75回県図書館大会 兼：北信越大会 11月7日（金）、8日（土）

・会場；佐久市内小中学校・佐久平交流センター

木曽支部参加者3名（小中学校関係者2名）

② 中信図書館大会 10月3日（金）

・会場；松川村すずの音ホール研修室・松川村図書館

2 本年度の活動を振り返って

・木曽郡学校司書部会では、各校一人職種での図書館運営の中、貴重な情報交換の場となっています。場所についても各学校での開催を中心に予定させていただき、各校の取組の状況に触れながら開催することができました。

・令和9年度 長野県図書館大会の木曽町での開催へ向け、令和8年度に準備委員会を立ち上げ、現在検討されているガイドラインに沿った形で大会準備を推進していく予定です。

・読書感想文コンクールの審査は、木曽国語同好会と共同で行っています。木曽国語同好会の中の担当者（小中学校の国語科の職員）が審査するので、小中のバランスもよく、効率的に進めることができます。県との連絡は、支部代表者と審査担当主任で分担しています。

長水支部

長水支部代表 長野市立豊野東小学校 関川 あかね

長野上水内支部は、長野市・飯綱町・信濃町の小学校 56 校、中学校 26 校。義務教育学校 1 校の 83 校からなっています。図書館関係諸団体と連携しながら、活動を進めています。

1 事業内容

(1) 部会総会 6月30日(金)に長野上水内図書館協会総会を書面による審議の方法で開催。

- ・令和6年度事業、決算報告
- ・令和7年度役員
- ・令和7年度事業計画、予算

(2) 図書館大会への参加呼びかけと参加補助

①第75回長野県図書館大会

- ・期 日 令和7年11月7日(土)8日(日)
- ・会 場 佐久平交流センター
- ・大会テーマ 「豊かな学びを支える図書館～よりよい未来の創造に向けて～」

②令和7年度北信地区図書館教育研究大会(更埴支部)

- ・期 日 令和7年10月16日(木)
- ・会 場 千曲市立更級小学校 戸倉上山田中学校

(3) 第48長野県読書感想文コンクールへの応募

7月1日～ 県読書感想文コンクール募集

9月29日 県読書感想文コンクール審査

10月下旬 賞状の各校への送付(地区入選)

11月下旬 県読書感想文コンクール審査結果の送付

12月下旬 賞状を各校へ送付(県入選)

○地区応募総数 231作品 小学校:171作品 中学校:60作品

○応募校数 小学校:37校 中学校:12校

○受賞者数 金賞:4名 銀賞:14名 銅賞:10名

(4) 2025年度読書感想文コンクールへの応募 ・学校ごとに参加

2 反省と今後の課題

(1) 長野県図書館大会への参加者への支部からの補助について

第75回長野県図書館大会、令和7年度北信地区図書館教育研究大会へ参加呼びかけと参加者について参加費の補助ができた。

(2) 読書感想文コンクールについて

応募数は、減少傾向。応募作品の中に文字数が規定に達していない作品があった。規定に沿った応募の周知を図りたい。今年度の応募作品に、応募票「感想文執筆に際しての参考文献」の欄に AI 使用の記載がある作品があった。作品内容が選出の基準に達しておらず選外となったが、使用の用途等の実態把握も含め、AI の使用について方針を考える時期にあると思う。

(3) 地域図書館との連携について(長野市)

長野市立図書館運営協議会にて、部会事務局が市立図書館と連携し、以下の活動について、部会のネットワークにて各学校図書館に周知、児童生徒の読書環境を充実させていくことを確認。

① 長野市立図書館による

- ・中山間地域小中学校への貸出
- ・市内全小中学校の事前申込により事前取り置き貸出

②市内2館の図書館で開催される催し物、行事

ステップアップ研修参加報告

～参加された方の感想より～

NO	日時	内容	会場	講師
1	12月4日(木) 18:00～19:30	みちねこの「図書館の扉をひらく」研修会 学校図書館のキホン	須坂市文化会館 メセナホール(小ホール)	「オフィスみちねこ」代表 木下通子
2	2026年 1月23日(金) 13:00～16:35	書店と図書館がつなぐ 未来の読者	県立長野図書館	県内外書店・図書館 関係者
3	2026年 2月4日(水) 13:30～16:30	デジタルアーカイブ研修	県立長野図書館	県立長野図書館職員
4	2026年 2月13日(金) 13:30～16:30	デジタルアーカイブ研修	池田町交流センター「かえて」 * 中信地区図書館及び公民館 図書室職員連絡会を兼ねる	県立長野図書館職員

◇12月4日(木) みちねこの「図書館の扉をひらく」研修会 学校図書館のキホン

講師：「オフィスみちねこ」代表 木下 通子 様

長野県須坂創成高等学校 学校司書 黒岩 吾子

研修当日午後は、「岩波講座高校生編」ということで、市内3校約1,000人の高校生を前に講演をしていただいた引き続きでの研修会。木下さんのパワーに圧倒されました。

「岩波講座」では事前に高校生の運営委員の生徒さんが作って行ったアンケートにそって、運営委員の生徒たちとの軽妙なやり取りを交えて、講演をいただきました。ステージ上の生徒の受け答えを聞きつつ、「いや、オリエンテーションで説明したよ!?」「図書館だよりに書いたでしょ!?」「カウンター前に貼りだしてあるじゃん!?」など等。3校の司書大悶絶でした。広報の仕方、時期、繰り返しの方法等など、ブラッシュアップが大切だなあ、と毎日の仕事を見直す機会となりました。

夕方からの研修会も、木下さんの元気をいただける会でした。「読書はスポーツと同じで訓練が必要」という言葉が、大変印象的でした。図書館にいる人間は基本、本を読むことが得意です。しかし現在、家に1冊の本もない、新聞も購読していないという家庭が増えていることにも木下さんは触れておられました。高校においても読める生徒さん、読む生徒さんと、読めない、読まない生徒さんとの二極化が進み、その差は大変大きくなっています。言葉調べだけならばネットが便利であることを大人は知っています。その先の、どちらが正しいのか、どう考えるのか、に進むためには“読む力”が必要になります。読みたい心、読む力を育む図書館活動をもう一度きちんと見直したい、と背中を押される研修会でした。

◇12月4日(木) みちねこの「図書館の扉をひらく」研修会 学校図書館のキホン

講師：「オフィスみちねこ」代表 木下 通子 様

長野日本大学小学校 司書 花崎千恵子

学校司書として年数を重ねていながらも、つい忘れがちで我流の捉え方になってしまう「学校図書館のキホン」。そのタイトルと、図書館司書のエキスパートとして様々な活躍をされている講師の木下道子さん(みちねこさん)に魅せられ、いろいろ学びたく、参加させていただきました。

- 調べ学習と探究学習は異なり、探究学習では、自分の問題意識に関する答えを求めることが目的の学習。探究のプロセスを大切に、問いを探究し続ける学習。探究は特別な学習ではなく、日常生活の中でも行われている(人生の探究ともいえる)。
- 情報収集とその方法、思考ツールなどを使って、資料のまとめかたや、考えるきっかけを作る。資料の引用と要約の違いなど、子供の時から段階的に身につけていく。
- 現場の司書は、自分の学校はどんなことを教えてどんなことを目標にしているのかを知る。教員と同じ立場で話ができるようになっていく。それに合わせて図書館は何かアピールできるかを考えて提案する。
- 司書は資料の専門家である。自分のスキルアップをしてほしい。
- 図書館は成長する有機体である。

法的な位置づけ、読むことへの導き、所属する学校でのマーケティング、地域との連携など、講師自身の起業などの実体験を含めてわかりやすい展開の内容で、なかでも「司書は一人職場であるが、力を合わせてやっていくことで絶対新たな力になる。」と「チャレンジ」という言葉がとても印象に残り、心強い学びになりました。

◇2月4日(水) デジタルアーカイブ研修 講師：県立長野図書館職員

飯山小学校 司書 小林麻子

貴重な資料の保存として、デジタル化というのが有効な手段だということは知ってはいましたが、実際どのようにして閲覧できるものにしていくのか基礎的な手順を教えていただける良い機会だと思い、参加させていただきました。

企業、公共図書館、学校など館種を超えた参加者が集まり、各自持ち寄ったデジタルアーカイブ化したい資料について話し合いをしたのも貴重な経験でした。後半ではスキャナを使ってコンテンツファイル(電子ファイル)を作ってみたことで、著作権問題、検索でヒットしやすくするためのメタデータ(本でいう目録情報)入力の重要性、1冊の画像データ作成にかかる時間など、今までのぼんやりしていたデジタル化というものが、自分の中ではっきりしたのは、大きな収穫でした。

そして、県立図書館の森館長が紹介されていた「国立国会図書館デジタルコレクション」「信州デジタル commons」「デジとしよ信州」などこれらを、学習教材として提示できる情報活用能力が、これからの時代司書として求められているということを感じた研修でした。

読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

担当幹事 長野市立塩崎小学校 菅沼 純子

令和7年度第48回長野県読書感想文コンクールの審査結果について下記の通りご報告いたします。本コンクールは、児童生徒の読書活動の推進および読解力・表現力の向上を目的として実施され、本年度も県内各学校より多数の応募がありました。各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、厳正なる審査の結果、各部門において優秀作品が選出され、次のような結果になりました。

県内小学校・中学校 317校より合計 2,271編の応募がありました。

(内訳) ◇小学校：低学年123編 中学年474編 高学年699編 ◇中学校：975編

◇県入選(県応募)作品数：571編 ◇県入賞作品数：250編

◇中央審査会応募作品数：8編 ◇中央入賞作品数：なし

応募校数については、昨年度より17校減少し、応募作品数も、493編減少しました。ここ数年は減少傾向にありましたが、今年度は、応募校が大幅に減少しました。要因としては、児童数の減少や教育課程の改訂に伴う教育活動の多様化、それに伴い読書や感想文指導に十分な時間をかけられないこと等が考えられます。夏休みが長くなったことで、夏休みの課題として出した学校も多かったことと思います。特に低学年の応募が少ない原因のひとつに、応募規定の字数が多く取り組みにくいとも言われています。来年度は、低学年でも応募しやすいように字数を調整していきたいと思っておりますので、たくさんの児童の皆さんに挑戦してほしいと願っています。県審査にあられた先生方からは、「課題図書をよく読み込んで書かれている作品が多い」「主題について自分の考えをしっかりと書いている」「読み応えのある作品が多かった」「自分の経験を重ねて書いている作品が多く、自己を見つめる作品もあった」等の感想を寄せていただきました。一方で、作文の基本的な表記の誤りや誤字、字数過不足な作品が、どの部門にも見られましたので、応募する前に、各校で基本的な指導や確認をしていただけるとありがたいと思われました。今後は、インターネットで書き方を検索したり、生成AIを使用したりした場合の対応について、情報モラル・情報リテラシーの双方の観点から、対策を検討していきます。

支部・県審査委員の先生方には、多くの感想文を精読し厳正に審査していただきました。また、小・中学校図書館部会OBの先生方には審査のお手伝いをいただきました。あわせて御礼申し上げます。

令和7年度の読書感想画コンクールについては、各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

県内小学校・中学校 18校より合計 492点の応募がありました。

◇県応募作品数：243点 (内訳) 小学校217点 中学校26点

◇中央コンクール応募作品数：11点 ◇中央入賞作品数：なし

本年度の応募作品数は昨年度よりかなり増加しました。応募された作品は、低学年のお話の絵が多かったのですが、どれも作品から感じた感動を様々な手法を使って表現しようとしていることが感じられました。高学年や中学生の作品も物語への思いを丁寧に表現した力作が揃っていました。来年度は、さらにたくさんの児童生徒に応募していただけるように、各支部・各学校への呼びかけに努めて参ります。

最後になりましたが、両コンクールにご尽力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。今後も、子どもたちへの読書の啓発や意欲的な作品の応募を賜りますようお願い申し上げます。

部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第172号

発行日 令和8年3月6日

発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内

長野県図書館協会小中学校図書館部会(代表 山口 美直)